

## 着任挨拶

協力ネットワーク開発研究領域教授 浅沼修一

本年4月1日付けで着任しました。前任は独立行政法人国際農林水産業研究センター（JIRCAS）で、約7年間、主に国際研究協力プロジェクトの立案・企画・実施運営・評価を担当し、1年半前から石垣市にある沖縄支所で、支所長として、亜熱帯気候条件下における農業研究の管理・運営を行ってきました。

西アフリカ諸国及び東南アジア諸国における自らの農業研究やJICA短期専門家としての経験並びにJIRCASでの研究管理等の経験から、開発途上諸国における農業発展はその国の住民が自ら考え、自ら努力することから始まることを身にしみて感じました。そこで、当センターにおいては、セン

ターがこれまで実施してきたJICAによる集団GIS研修の企画調整及び人材のデータベースの管理運営を引き継ぎながら、アフリカや東南アジア等をターゲットとした途上国の人材育成のための国際教育協力、すなわち研究・教育を通じた人づくりに取り組みたいと考えています。よろしくお願い致します。



**略歴** 1950年生まれ。1977年名古屋大学大学院農学研究科博士課程満了（1979年農学博士）。1979年ナイジェリアにある国際熱帯農業研究所(IITA)ポスドクトラルフェロー、1983年九州東海大学農学部講師、1986年農林水産省北海道農業試験場、1993年九州農業試験場。この間一貫して圃場における根粒菌利用の研究に従事。1998年6月JIRCAS、2003年JIRCAS沖縄支所長。2005年4月から農学国際教育協力研究センター教授。

## 退任挨拶

北川勝弘

私は、1999年4月に新設された農学国際教育協力研究センターへ最初の専任教官として農学部から移籍して以来、この6年間、開発途上国と農学分野での国際教育協力一人づくり協力を進めることを目標に、協力ネットワーク開発研究領域を担当して活動してきましたが、3月末をもって名古屋大学を定年退職しました。

農国センターで過ごした“我が最終ラウンド”を振り返ってみますと、新設センターの立ち上げ時期にスタッフ一同が苦勞しながら取り組んだ課題の多くが、今ではそれぞれある程度結実しつつあることを実感でき、努力した甲斐があったと嬉しく思います。私が担当した主な課題は、①国際教育協力に関心を持つ全国の教員・研究者らを対象とする人材デ

ータベース開発、②JICA - ナミビア大学農学部強化支援計画、③JICA-AICADプロジェクト国内委員会（農学）、④JICA - GIS研修コース、の4つでしたが、いずれも大変やり甲斐のある仕事でした。これらの課題の遂行に際し、センタースタッフをはじめ多くの関係者の方々からたくさんのご支援・ご協力をいただきました。ここにあらためて、これまでお世話になった多くの方々に厚く御礼を申し上げます。

末筆ながら、農国センターが今後、ナショナルセンター、インターナショナルセンターとしての機能を一層高められ、開発途上国とわが国の研究者・教育研究機関の間を有機的に結ぶ橋渡しの拠点としてさらに発展されますよう、心より祈念いたします。



## 離任挨拶

門平睦代

月日が発つのは早いもので本センターが創設されて6年がたち、私自身の勤務期間も5年と10ヶ月になりました。赴任早々は、パンフレットの作成、人材データベース構築のためのアンケート調査などに取り組みながら、最初の海外業務がネパールでのJICA農業プロジェクト外部評価でした。その後、パラグアイ中等農業教育カリキュラムの見直しやナミビア大学

農学部強化支援計画になどに携わり、農業教育を通じた人づくり協力を研究・実践してきました。しかし3月末にはICCAEを卒業し4月1日より北海道にある帯広畜産大学に勤務しています。名古屋大学での経験を活かし帯広でも「人づくり」のために尽力しますので、これからもよろしく願いいたします。

